令和５年度第２回中央区地域支えあいづくり協議体　（議事録）

日　時　　令和６年２月２日（金）　午後１時30分～３時20分

場　所　　中央区社会福祉協議会３階会議室

次　第

１　開会

２　新任委員紹介

３　会長・副会長選出

４　会長挨拶

５　各委員より報告

６　議題

（１）　高齢者施策推進室より報告

（２）　生活支援コーディネーターによる取組みについて

（３）　「支えあいのまちづくり協議体（第２層協議体)」実施報告

（４）　意見交換

「地域包括ケアシステムの推進における支えあいの仕組みづくりについて」

７　今後の協議体実施予定

８　閉会

出席委員（敬称略：順不同）

鈴木　雅之　　民生・児童委員協議会　京橋地域高齢福祉部会
髙野　大輔　　民生・児童委員協議会　日本橋地域高齢福祉部会
大矢　智子　　民生・児童委員協議会　月島地域高齢福祉部会
吉田　千晴　　京橋おとしより相談センター
保田　奈奈　　日本橋おとしより相談センター
林　裕一　　月島おとしより相談センター
加久　哲也　　中央区桜川敬老館孤立防止・生きがい推進担当
遠藤　馨　　中央区浜町敬老館孤立防止・生きがい推進担当
岩﨑　千春　　中央区勝どき敬老館孤立防止・生きがい推進担当
古田島　幹雄　中央区社会福祉協議会　事務局長
片桐　義晴　　中央区社会福祉協議会　管理部地域ささえあい課長
　　（第１層生活支援コーディネーター）
北澤　千恵子　中央区高齢者施策推進室長
阿部　志穂　　中央区福祉保健部高齢者福祉課長
河内　武志　　中央区福祉保健部介護保険課長

欠席委員（敬称略）

射場　典子　　聖路加国際大学　国際・地域連携センターPCC 開発・地域連携室

配布資料

資料１　　中央区地域支えあいづくり協議体運営要綱
資料２　　高齢者通いの場マップ
資料３　　区のおしらせ２月１日号１ページ目の写し
資料４　　中央区行方不明者高齢者捜索ネットワークチラシ
資料５　　生きがいデザインセミナーチラシ
資料６　　生活支援コーディネーターによる取り組みについて
資料７　　支えあいのまちづくり協議体（第２層協議体）実施報告
資料８　　中央区の地域包括ケアシステムの推進体制における高齢者施策の体系図
資料９　　中央区の既存の社会資源

会長：射場委員を選出
副会長：髙野委員を選出

各委員からの報告：

「最近の高齢者の生活の様子について」

・京橋地域は独居の方が多い。体の病気というよりかは心の病気を訴える方が増えている印象。桜川敬老館のプログラムに参加するのが楽しみといった元気な高齢者もおれば、遠くにいる親を呼び寄せるといった相談や、ヘルパーの数が足りなくて介護が行き届きにくい方が増えてきた印象である。

・昨日警察から振り込め詐欺に関して、高齢者への注意喚起の要望が入った。民生委員として担当している地区は、施設に入った方、お亡くなりになった方が多く、3、4 年前に比べて戸建在住の高齢者が減り、集合住宅在住の方が増え、民生委員だけでは対応が難しくなってきた。また、干渉して欲しくないという方も多く、どのように対応したらよいのかという思いがある。

・社会福祉協議会の事業もコロナ禍に比べて徐々に戻りつつあるが、虹のサービスや配食サービスなどコロナ以前にはなかなか戻らない事業もある。また最近の大きな出来事として能登半島地震があったが、まずは亡くなられた方へのご冥福をお祈りするとともに被災者の方へお見舞い申し上げたい。亡くなられた方の 60%以上が 70 歳以上の高齢者ということで、区内の要配慮者への対策を区と社会福祉協議会が連携してしっかりやっていく必要があると思っている。なお、社会福祉協議会では、義援金の募集、被災地支援で活動する際のボランティア保険の助成を行っている。

・桜川敬老館では、12 月にはゴスペルコンサート、1 月には民謡コンサートを行い、2 月にはバレンタインコンサートを予定している。この間 1 か月あたり 3,000 人以上の来所、1 日あたり 100 人以上の方が来所している。マスクの着用は基本的には本人判断としているが、歌を歌う際にはマスクの着用をお願いしている。以前からであるが、声を出す機会、体を動かす機会を皆さん楽しんでいる印象。

・日本橋から比較的近い千代田区の軽度者向けのデイサービスが 12 月に閉鎖され要支援 1、2 の方たちの行き先がなくなってしまった。もともと中央区内のデイサービスで通っていた方の通所回数を減らしてもらったり、一般向けのジムやスポーツセンター、通いの場に通うなどの新たな選択をされた方もいる。介護人材不足の点からも要支援認定が出たからと言って介護サービスを利用するという流れだけではなく、地域の社会資源につながったのは良かったのではないかと思う。日本橋地域には通いの場も多く、4 月からも新しい通いの場ができるとのことで今後もこのようなところにつなげていけたらと思う。

・町会を通じて初めての親の介護に関する相談を受けることがあったが、理美容サービス券があることに驚いていた。中央区が行っている全体的なサービスについて、どこかには記載はされてはいるが、実際に直面しないと理解できないという面もあり、初めて介護をする方に向けて詳しく分かるような仕組みが必要なのではないかと感じた。また、通いの場を訪問すると、各種詐欺に遭遇している方もいる印象。元気な高齢者は詐欺に遭った際、何かしら抵抗しようとするようなこともあるので、自分の身を守ることの啓発も必要であると感じている。

・気軽に相談を寄せてもらうために、区内 4 か所で定期的におとなりカフェ・ちょこっと

相談会、あるいはちょこっと相談会のみを開催している。高齢者の方に関してはご自身の体のことを心配しての相談や、ご家族など認知症状のある方に関する相談などがあるが、全体的にはスマートフォンの基本的な使い方に関する相談が多い。区内各所でもスマートフォンに関する相談の場は設けられているが、高齢者のニーズが高いことを感じているため引き続き取り組んでいきたい。また、担い手の横のつながりづくりに向け、勝どきデイルーム利用団体の交流会を行った。はまるーむの利用団体に関しても実施したいと考えている。社会福祉協議会の事業にはなるが、事業の枠を越えてサロン活動に取り組んでいる担い手同士の交流の場を実施し、共通の課題、例えば実施場所に関して情報交換を行うなどの交流が見られた。今後もいろいろな形で地域のネットワークづくりに取り組んでいきたいと考えている。

・浜町敬老館の利用者、通いの場の利用者は概ね増加傾向。通いの場などに来られる方は、以前は一人で来る方が多かったが、最近では誘い合わせて来られる方が増えてきた印象。浜町敬老館では主に独居の利用者に対してお元気ですかコールを行っているが、コールをきっかけに 1 か月に 1、2 人ほどの割合で敬老館に顔を出していただいている。また、出かけている方や仕事を再開された方などが多く電話に出られない方も多い。また敬老館では最近、寒いからとの理由でたっぷり湯船につかり湯あたりを起こす方がいたが、日頃からの声掛けや浴室を温めるなどの対応が必要であると感じている。

・月島地域の特徴として晴海フラッグへの移住に際する介護サービス利用の相談が少しずつ増えてきている。区内のケアマネジャーを見つけることができず、見つかるまでは月島おとしより相談センターが協力する形で引き続きケアマネジャーを担ってもらうケースもあったが、同様のことが今後もあるのではないかと懸念している。また、月島地域の民生委員との意見交換会を開催し、民生委員とおとしより相談センターとが日頃感じている困りごとが同じようであったことが共有できた。

・月島地域は敬老館や銭湯、ベンチでおしゃべりを楽しむ元気な高齢者が多い印象。一方で、コロナ禍を経て歩けなくなってしまった方や再開発で引越しをせざるを得ない高齢者もおり、環境が変化することは高齢者にとっては厳しい面もあると感じている。また、月島地域は長屋が多く屋根の点検詐欺が多い。先日詐欺にあった高齢者が業者を追い返して警察に連絡したということもあった。佃に行ったところ、屋根の点検詐欺の注意喚起の張り紙をいたるところで見かけたが、他の地域でも町会などで注意喚起していった方がよいと感じた。

・新型コロナウイルス 5 類移行後、勝どき敬老館では講座の当日受付や定員数を増やしたため、利用者数は増えている。今後のイベントとして、小学校の管楽器クラブや保育園児を招いての読み聞かせなど、高齢者との交流を企画している。

議題説明

（1）中央区高齢者施策推進室より事業報告

（2）生活支援コーディネーターより事業報告

（3）生活支援コーディネーターより支えあいのまちづくり協議体実施報告

〇上記事業説明及び配布資料への質問事項：なし

（4）意見交換（グループワーク）

「地域包括ケアシステムの推進における支えあいの仕組みづくりについて」

京橋地域：

・区内には不足している社会資源はほとんどないように思う。今ある社会資源をどのように活かしていくのかを考えることが必要なのではないか。

・高齢者クラブは担い手の高齢化、加入率の低下の問題がある。

・認知症カフェは場合によっては専門的な知識が必要なこともあり、なかなか数が増えないのが課題である。

・活動を行う場所がそもそも少ない。場所があったとしても狭い、担い手がいないという問題がある。

・通いの場など要件が決まっているものもあるが、誰でも利用可能な要件にするなどの取り組みが必要。

・一緒に散歩をしてくれる人、「お薬は飲みましたか」といったような日常のことを気にかけてくれるような人が近くにいてくれると良い。

・活動に際して名簿を作成し、名簿を利用した見守りや防災に関連した見守りの取り組みを行うことも必要ではないか。

日本橋：

・江戸バスを利用しても遠回りになるなど、浜町敬老館への移動手段が少ない。

・介護面に関しては民間の方が多く、区としての取り組みは少ない印象。

・スマートフォンが使えなくなってしまったとの相談を受けることがあるが、何年も更新作業をしていなかったり、初期設定のままという方もいて、ご自宅で更新作業をやろうとしたところ、wi-fi が設定されていなかったりして通信料がかかってしまうこともあった。区としてスマホを更新するためのシステムを整える必要があるのではないか。

・男性の居場所が少ない。男性はそもそも群れたがらないが、役割を与えることで社会参加がしやすくなるのではないか。

・通いの場の主催者に様々な提案をしてくれる方が多く、例えば多世代交流の場など通いの場以外の場で活躍してもらえればよいのではないか。

・シルバー人材センターに登録している方は多彩な方が多い。しかし、ある一定の決まった方が仕事を請け負っている印象のため、活躍の場を広げてもよいのではないか。

月島：

・社会資源自体はあるが、アクセスが少ない。例えば、晴海、豊海、佃在住の方に関しては勝どき敬老館に行きにくいなどの問題がある。
・高齢者クラブは再開発の影響で担い手が不足しており、機能が不足している。それに付随して町会役員の担い手も不足している。
・見守る側、見守られる側、どちらも高齢化している。
・再開発が進んでいるが、新しい街は一からコミュニティ形成をしなければならないという大変さがあるのではないか。
・タワーマンションの多い月島地域は、駐車場、駐輪場の問題もあり、介護事業者によっては車や自転車の違いでタワーマンションに入れる業者と入れない業者がある。
・社会資源の活用については主軸となるのは意識の変革である。例えば、徘徊してしまう高齢者が出てしまってもおとしより相談センターがタワーマンション側と対話を重ねることによって、高齢者の実態を知ってもらえ、柔軟な考え方をしてもらえる。
・若い世代は日中働いていて担い手になるのは難しい面もあるが、ふるさとに愛着をもってもらうことで担い手となってもらえるのではないか。
・まずは、世代間交流を通して子どもが高齢者と関わりを持つ、そして親世代も高齢者と顔の見える関係性を築けるのかよいのではないか。

【副会長より感想】

・痛切に感じるのは高齢者の行動範囲は思ったよりも狭いということである。アクセスや wi-fi など基本的なインフラが高齢者目線になるのがよいと感じた。
・担い手が片方では絵に描いたように少なくなっている。しかし一方で柔軟な視点に立って考えるとまだまだ担い手はいるのではないか。「お薬を飲みましたか」といったようなささいなおせっかいも重要。男の人が役割を与えられると嬉々として動いてくれること、またあまり高齢者扱いしないといったことも重要な事例だと思う。
・既存の町会というシステムを若手が使いやすいようなシステムに変えて、若者が自由にやっても怒らない社会を作ることが、まち全体ひいては高齢者にも恩恵のあるまちになるのではないか。
・防災はそのまま福祉につながるという専門の先生もいて、本日の意見交換を転用するとマンパワーの確保という話につながるのではないかと感じた。